

フィールドワーク関連のお知らせ ほか

フィールドワークに行った皆さん、お疲れ様でした。
 思い通りには行かなかった班もあったかもしれませんが、「行ってみたらめっちゃよかった」「先方の対応がとても親切で感動した」「いい話を聞かせてもらった」と、大変な思いはしても、家や学校では経験できない「**大人(社会)との腰を据えた対話**」が経験できたことをうかがわせる言葉も聞けました。来夏には「**有権者**」となるみなさん、ここで得たものを、研究だけでなく様々に生かせるといいですね。また、得たものは「**フィールドワーク報告書**」に適切にまとめて、**班員→班長→班担当の先生へ**。

また、**礼状書き**も欠かせぬ礼儀。帰ってきたら早めに書いて、**SGH 事業推進室へ提出**すること。特に「依頼状」「計画書」それから「帰着報告」で、遅れたり忘れたりしてしまった班は特に気をつけてください。班担当の先生に連絡をしていなかった班、「依頼状」が間に合わず直接持参した班、当日まで交通手段が確認できていなかった班…などなどがありましたよ。それらの原因はコミュニケーション不足にあると思われます。同じ班の班員、班担当の先生、教科担当の先生、SGH 系の先生など**分らないことは人に聞いてみる**ことです。

OFW 終了後、各班の撮影担当の人は撮った画像を SGH 事業推進室までメールで送付してください。
 (sgh-naga@nagano-c.ed.jp)



FW : 県庁林務部訪問



FW : 上田紬を見学



FW : 飯山班 (仏壇通り)

グローバルに活躍する日本人経営者がみる日米の違い
吉村克己『主張できる日本人になる』

希望者に贈呈します

教頭 小川幸司

今から約 20 年前、アメリカを代表する航空会社のコンチネンタル航空が経営危機に陥った時、ひとりの日本人が副社長として会社の再生を見事になしとげた。彼の名は鶴田国昭。私立の工業大学の在学中に学生結婚をして大学を中退し、独学で鍛えた英語力を武器に川崎重工業に勤めるも日本の企業のありかたに疑問をもち、渡米してアメリカ社会で活躍するようになる。ピードモント航空、次いでミッドウェイ航空で業績をあげ、ついにコンチネンタル航空の副社長に迎えられた。

本書は、ルポライターの吉村克己が、鶴田本人に取材して彼の軌跡をまとめた本である。鶴田の生き方から浮かび上がってくるのは、私たちが当たり前だと思っている日本の企業文化に対する鋭い問題意識であり、他方で私たちの通俗的理解をこえて存在するアメリカ社会の強みである。タイトルの「主張できる日本人になる」という言葉は、もっと世界に出て自己主張しろと言う意味ではなく、日本人は自己満足を反省しないと世界に通用しなくなるだろうという鶴田の危機意識の表現である。だから本書は、日本とアメリカの物事の考え方の違いがどこにあり、私たちが謙虚に反省すべき点がどこにあるかを考える際にとても参考になる。

一例をあげよう。鶴田はコンチネンタル航空で「ワーキング・トゥギャザー」を合言葉にした。それこそ「和をもって尊しとなす」日本的経営ではないかと思われるかもしれないが、鶴田は日本的経営に「ワーキング・トゥギャザー」は欠如していると手厳しい。真に「ワーキング・トゥギャザー」と言うのなら、社員に深夜までの労働を強いるのではなく、社員の精神的・身体的な過労をなくすような努力をすべきである。社員の猛烈な働き方に依存する日本は、結局のところ生産性を向上させることができず、その結果、価格競争において世界の企業に後れをとることになってしまったのだと鶴田は分析する。

また、鶴田は、「スクールエリート」ではなく「ストリートスマート」である人間を育てるべきだと主張する。自分が問題だと思ふことを学校から社会に出て、自分の眼で確かめ、考えられる人間が「ストリートスマート」だ。「路上という実社会で鍛え抜かれた知恵と判断力と実行力を持っている人」こそが、これからの社会を担うのだ、と。

この本 15 冊を本校 OB で上田高校や松本深志高校の校長職を歴任された藤本光世さんから、「後輩にとって参考になると思うので使ってください」と寄贈していただきました。1 冊を図書館におき、残りを希望者にプレゼントしますので私のところに来てください。本は新書版で 170 ページ (定価は 880 円) です。手軽に読みこなせる文体ですし、何より私自身、読んで大いに勉強になりました。入手した人には感想文を課す…なんてこともしないのでご安心を。後輩を激励してくださる藤本先生に感謝しつつ、読んでくださいね。

希望者は教務室の小川教頭先生のところへ行ってください。先着 15 名の方に贈呈します。

～米国リーダー研修報告会の感想～

みなさんから提出された報告書を読んで、皆さんがすごく立派な聴衆であることがわかりました。もちろん発表者も素晴らしい発表をしましたが、聞く側も素晴らしい姿勢だったと思います。そんな素晴らしい会に立ち会えたことに感動しました。以下に感想を載せておきます。



米国リーダー研修報告会

・あらかじめその土地や人物について調べるなど事前準備をすることが実際に現地に行って活動するときに大切になってくるということがわかりました。アメリカに行くときと安全面や制度に日本と違いがあると目の当たりにすることでできるので自分のいるところにとどまらずに違うところに行くことが異文化の理解につながっていくんだなと思いました。今のうちから自分がやりたいことを見つけてそれに向かって積極的に行動していけるようにしたいと思いました。外に出ないとわからないことがたくさんあるとわかったので、色々な所に行ってみようと思いました。

・米国リーダー研修では生徒が自分たちでプログラムを作るということを知った。大変だとは思いますが、与えられたことをただやるより楽しく、やりがいがあるだろうなと思った。英語プロジェクトの時間に習った、プレゼンテーションの際のアイコンタクト・ジェスチャーが大切だと感じました。

・プログラムが去年と一緒だと思う。なぜ東側に特定するのだろうと疑問に思ったし、西海岸でアメリカの産業について学んだっていいのではと感じた。米国リーダー研修として行った方々は米国に行っただけでなく、リーダーとしてSGH活動に積極的に取り組んでほしいと思います。

・生きている上で、大学に入ることがゴールではなくて、その先のことまで考えていくことが大切で、自分のやりたいことを見つけ、そこまでの道のりがどんなに困難であってもあきらめずに努力をし続けることが重要であるということがとても印象に残りました。

・自分の住む国と違う国に行ったり、人と話したりすることは普段と違う環境で抵抗がある部分もあるけれど、各グループのまとめのコメントでも多く述べられていたようにやってみようと思うことはやってみることや自分からまず何か行動することが自分の世界を広げることで自分のためにも勇気をだして何か行動したいと思った。

・ハーバート大学に入学した理由に「やりたいこと」「昔からの夢」とあったのが印象的だった。興味の力はすごいと思った。

・自分も行けば(チャレンジしてみれば)よかったな…(多数意見)

・米国リーダー研修に参加したみんながどんなことをしていたのか良く知らなかったけど、今回の発表を聞いてとてもよくわかりました。自分の身近な友人たちが海外に行っすぎて積極的に活動していて、すごく多くのことを学んで堂々と発表しているのを見て、なんだか感動しました。

・良いところを学ぶのは良いけれど、そうすることがベストだという考え方は嫌だ。全員が全員積極的になれるわけではなし、その力を発揮する場もちがう。積極さの度合いも違う。自分は英語と決めつけず、他のことにおいても積極的に行動したいと思った。やりたいことを見つけない。

・今回のプレゼンはすごく要点が伝わってきた。学んだことや感じたこと、研修が楽しかったということが伝わってきました。場所ごとの発表でもまとめでも「積極的に」という言葉が多く出てきました。私は英語がとても苦手なので英プロなどで英語で話すことに抵抗があります。しかし、今回のプレゼンを聞いて、その大切さを学びました。

・12月の台湾へ行く時には「自分から」ということを意識し、事前準備をしっかりすることでより良い体験にしていきたいなと思います。今回のSGHのローカルな活動を12月の台湾でのグローバルな活動へ良い形で繋げていきたいです。

・発表の中で何度もアメリカの人たちは積極的にその姿勢に刺激されたと言っていたけれど、発表していた人たち自身もとても堂々としていて、今回の研修で学んだことはとても大きかったのだなあと感じた。

～報告 SGH「善光寺グローバルサミット」の「今、～

金鵒祭と同時に開催される「善光寺グローバルサミット」まであとひと月です。「善光寺グローバルサミット」は、県内外のSGH校・SSH校・国際教養科校の7校の生徒や県内の留学生も招き、2日間にわたって開催されます。

まず1日目(7/7)の第一部では、善光寺の宿坊「白蓮坊」を会場として、各校でどんな活動をしているかの交流と世界の課題に触れるワークショップを行います。

2日目(7/8)の第二部は、本校大体育館を会場とし全校参加で開催、3年SGH生が自分たちの学年の活動を紹介するとともに自分たちが考えた社会課題の解決の仕方についての「提言」を発表し、それについて参加者と討論を行います。

3年SGH生の諸君は「今までのSGH講演会や発表会とはまったく違う形のものにしたい！」と張り切っています。

モデルが何もないところからの立ち上げです。3年生は「主体性」を合い言葉に3月から今まで、膨大な議論を積み重ねてきました。考える余地は山のようにあり、時に白熱、時に黙考しながら、荒野を切り開いてきました。昨年の「課題研究発表会」の時、校長先生が言った「真っ向から風を受けるフロントランナー」という言葉を体現する日々です。5月30日には準備会議「グローバルNAGANO戦略会議」(写真左)で、コメンテーター4人の前で「提言」素案を発表し、アドバイスを受けました。

この3年生を直接サポートしようと、2年生10人が運営スタッフに手を上げてくれました。6月7日には顔合わせも終わり、いよいよ全体での始動です。「フロントランナー」の3年生を応援しましょう。



グローバルNAGANO戦略会議(提案プレゼンリハ)の様子



コメンテーターからのアドバイスを受ける